

進学する大学が決まったら、第 2 外国語の勉強をどんどん進めよう

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。本日も「開倫塾の時間」をお聴き頂き、ありがとうございます。

少し先のことになりますが、志望校に合格をしたらどうしたらよいのかということについて、お話をさせていただきます。

受験生の中には、既に進学する大学が決まっている方も多いと思います。全受験生の 6 割が、昨年のうちに決まっているという話も聞きます。その方々、そして、今あるいはこれから入学試験を受験して合格を得た方々に、4 月に行われる入学式までに何をしたらよいかというお話をいたします。皆さん驚くような話かもしれませんよ。

以前は、大学は非常に楽なところで、授業に出席し、試験で何か書きさえすれば、必ず単位が取れ、卒業できると言われていました。あるいは、大学生は楽な立場にあり、授業に出ても出なくてもよい。先生は教室の前の方でボソボソと話していればよい。それでも卒業できてしまったというのが、以前の大学でした。

ところが、今は、それがガラリと変わりました。大学の質が大切だということで、その質の保証のために非常に厳格な評価制度が導入されてきています。例えば、4 単位を取るためには、前期に 90 分授業を 15 回、後期に 90 分授業を 15 回受けなければなりません。それが積み重なって、卒業単位になるようになっています。8 以上出席しなければ試験すら受けられない、大学で勉強した中身が身に付いていなければ卒業できないというようにしている大学もあります。ですから、授業にはちゃんと出ましょう。

大学 1・2 年生で大切になるのは、第 2 外国語です。英語の他に、中国語やスペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語などの中から履修します。これは、どこの大学でも行っていることで、試験を受けて合格点を得られないと進級できません。持ち越すと留年になることもあり、また、何年も単位が取れないと落第して卒業できないこともあります。

このように、1・2 年次の最大の難関は第 2 外国語と言えます。また、第 2 外国語の先生は非常に厳

格な評価をします。それは、中学1・2年生の内容を大学の授業でやるのでは価値がありませんから、これまで学んだ経験がほとんどない中国語やスペイン語などの第2外国語であっても、英語でいえば高校3年生レベルの内容のものを大学の2年間でやりこなそうと熱心に教授するからです。これが、第2外国語の単位を落としてしまう人が多い原因になっています。

そこで、私のアドバイスをお話します。進学する大学が決まったら、履修する第2外国語をできるだけ早く決め、入学式までに予習することです。まず、大きい書店に行き、「やさしい 語」などの書籍の中から、CD付きのあまり厚くない、説明の丁寧なものを購入して下さい。そして、その本を一心不乱に読んでスミからスミまで「理解」し、スラスラ読めるようにして下さい。これを入学式までに済ませましょう。

CD付きの教材はたくさんありますので、それを使って音読したり、書き取り練習をして教材に出てくる単語をスラスラ書けるようにする。また、易しい問題は自分で解いてみる。このような練習を徹底的にしてから、入学式に臨んで頂きたいと思います。

大学での授業が始まると先生がいろいろなことを教えて下さいますので、別の教材を使って勉強を続けていけば、留年することもなく、ましてや卒業できないなどということはありません。逆に、このような予習(準備)をしておかないと、大学の授業は1年目で高2レベル、2年目で高3レベルと猛スピードで進みますので、たちまち付いて行けなくなってしまいます。その結果、留年・退学という厳しい状況にもなり得ますので、大学が決まった方はすぐさま第2外国語の勉強を始めて頂きたいと思います。

大学入試がまだ終わっていない方もいらっしゃると思いますが、本日は「進学する大学が決まったら、第2外国語の勉強をどんどん進めよう」という旨のお話をさせて頂きました。